

頭部外傷(頭を打った)後

頭を強く打った場合には、脳にいろいろな変化が起こることがあります。
特に頭蓋骨の内側に出血が起こった場合には、生命の危機に直結することもあるので注意が必要です。
頭蓋内の出血は、直後から起こる場合と、数ヵ月後に起こってくる場合もあります。
そのとき、症状が無くても十分に注意が必要です。

注意する事項 …… **安静・確認・観察**

静かに寝かせて観察する
打撲部分を氷や水でよく冷やす
確認する必要がある事柄

状況

「何時・何処で・何で・どういう風に・どのくらいの強さでか？」 など

出血

まず傷を確認します 傷のわりに出血することが多い 圧迫して止血

コブ

冷やす(冷やすと腫れを少なくとどめる手助けができる)

意識

意識がない、意識がおかしい

いつもとちがう様子、ぼ～っとしていたり、会話がおかしかったり、不機嫌・ぐったりしている、などの症状
ぼんやりして、ほうっておくとすぐに眠ってしまう、起こしてもなかなか起きない ようなとき
時間がたつにつれて、頭蓋内に徐々に内出血を生じ、意識消失をすることもあるので十分に注意する
脳震盪で、軽い場合は「頭がボーとする」、「耳鳴りがする」、「足元がふらつく」などを訴える
重傷では意識消失する
意識障害が少しでもあれば、脳実質に何らかの障害の加わった証拠であるので、極めて慎重に扱う
意識障害や痙攣がある場合は刺激を与えてはいけない(大声で呼んだり、身体を揺すらないように)

頭痛

頭痛が強い、だんだん強くなってくるようなとき

視力(物の見え方)

ものの見え方に異常がみられるとき
物が二重に見えたりするとき
物が見えなくなったりしたとき
左右の瞳の大きさが違うとき

手足の麻痺・しびれ

感覚が鈍くなったり、動かしにくくなったり、しびれたり

けいれん発作

不随意に手や足がつっぱったり、パタパタしたり、ピクピクしたり、…というのがよくある症状です
眼球などを含めの見慣れない不自然な動きなども、痙攣の可能性がある

嘔気・嘔吐

顔色が悪く、繰り返し嘔吐したり、噴出すような嘔吐は重要な症状です
小児では嘔吐の症状も少なくなく、頭部CTが正常でも3人に1人の割合で吐きます
吐物を窒息しないよう片側の手足を曲げ身体を支え、顔を横に向けた少し斜めうつ伏せ状態にする

その他

鼻や耳からの出血やさらさらした液体が流れ出るとき(頭蓋底骨折の疑い)
どんどん熱があがるとき
頭を打った前後のことをよく覚えていないとき

呼吸の乱れ

人工呼吸や心臓マッサージを行う必要があることも予測しておく

運ぶ場合

できるだけ振動のない乗り物で短時間に運ぶ

数日は、外出・入浴は避ける

置いて出かけた時、目を離さないように

食事は8割程度にしておく(吐き気があるときは水分のみにする)

受傷後、24時間ぐらいの間は、最初の1～2時間、3～4時間、程度に起こしてみても、すぐに気がつくかどうかを確かめてみることも必要な方法です。

病院で診察を受けた後でも、よく注意して観察することが望まれます。